

日本ボストン会会報

発行所 日本ボストン会事務局 ㊟227-0045横浜市青葉区若草台8-28 Fax 045-962-0866

ボストンへの松坂・岡島効果

ボストン日本人会会長 久保田康夫

去年の11月14日、ボストンと日本の関係に大きな変化がありました。ボストン・レッドソックスが松坂大輔投手との交渉権を獲得したのです。

勿論、それまでも小澤征爾さんなどを通じて、日本との繋がりがあったボストンですが、野球のこととなると桁が違います。それも6500万ドルという大金を払っての交渉権です。皆様ご存じの通り、その1ヵ月後には正式にレッドソックスと契約を結びました。そして、ほぼ同時に「もう一人の日本人選手」、岡島秀樹投手もレッドソックスの一員になりました。

この松坂騒動でボストンに住む日本人の生活も大きく変わりました。ボストン日本人会にも、日米のメディアからの取材の申込みが殺到し、役員の間でメディア対策を話し合うこともありました。ボストンの街にもあちこちに日本語の看板が見られるようになり、シーズン開幕に向けてムードは高まるばかり。日本からのメディアの皆様をボストンにお迎えするレセプションなども開催されました。

そんな中での4月11日の松坂投手の地元初登板の際、Fenway Parkの近くのスポーツバーGame Onにボストンの学生を中心に30人以上が集まり、松坂投手の応援をするイベントを行い、日本の各テレビ局並びに新聞社の取材を受けました。ちなみにその日の試合の始球式では鈴木庸一総領事が素晴らしい投球を披露されました。

ボストン日本人会だけでなく、Japan Society of Bostonも5月31日のAnnual Dinnerは“Solute to the Boston Red Sox”と題して、レッドソックスのチェアマンであるTom C. Werner氏、そして岡島秀樹夫妻をゲストとして迎え、盛大なるパーティを行いました。会場はFenway Parkをモデルに飾りつけられ、チャリティオークションにはサインボールなどが出品されました。岡島選手の挨拶の際には大きな声援が起こり、松坂選手だけでなく、岡島選手への期待の高さも如実となりました。

街中でも、特にFenway Parkの周りには日本語が沢山見られるようになりました。日本語のTシャツや応援グッズは勿論、看板にも「ボストンようこそ」「最高のスポーツバー」などと書かれています。日本語のメニューを用意しているレストランも多くあります。街を歩いていると、アメリカ人から、松坂、岡島選手の活躍を「どうもありがとう」と声をかけられたり、日本での松坂選手の人気について聞かれたりします。

レッドソックスのテレビCMも一番の主演は松坂選手。恥ずかしそうに英語の台詞を言っています。日本からボストンを訪れる観光客も飛躍的に増えました。レッドソックスも日本からのお客さんに対応するために、チケットオフィスやプロショップで日本人の職員を採用しています。

そんな中、当然のように、「松坂選手の後援会を作ろう」という声が出始め、松坂選手に限らず、岡島投手やこの先、レッドソックスに所属する日本選手を応援する会と言うことで、「レッドソックス日本人選手後援会」が7月に発足しました。

高橋一彦前日本人会会長を中心に、現在の日本人会役員やレッドソックス愛好会のメンバーが基盤になり、少しずつ活動を開始しています。

8月29日にはニューヨーク・ヤンキース戦をテレビ観戦するイベントを初めて行いました。会員証を発行されたメンバーの数も8月の終わりにはすでに200人を超え、ボストンにお住まいの皆様への関心の深さが伺えます。

シーズンが終わりに近づくと、地区優勝、プレーオフ、そしてワールドシリーズへの期待が高まっています。ボストンでの1年目はレッドソックスの選手としての活躍だけでなく、それ以上に日本とアメリカの交流への貢献が高かったように思います。松坂・岡島両選手には、これからも日本語学校訪問やチャリティ活動などを通じて、地元日本人社会との絆をますます強くして、長年にわたって活躍されることを期待しています。

今年の総会・懇親会は11月22日(木)に開催します。於NEC三田ハウス芝クラブ(12頁参照)